

# 社会経済要因が健康に与える影響 に関する実証分析

立福 家徳<sup>+</sup>

## 要旨

近年、戦後からの日本の平等神話が健康分野を含めた様々な分野で揺らいできている。そこで、本稿では現代日本の30~40代女性の中に健康格差はあるのだろうか、あるとしたらどのような社会経済要因が、健康格差を生み出しているのか、ということの問題意識として健康に関する分析を行った。

具体的には、(財)家計経済研究所から提供を受けた「消費生活に関するパネル調査」の2002年から2006年までの個標データを利用する。健康に関するアウトプットとして主観的健康感に注目して2値変数に加工したパネルプロビット分析を行った。動学的パネル分析においてWooldridgeの方法を用いて一致推定量を得た。推計では、初期の健康と一期前の健康、教育年数が統計的に有意であった。この結果から、健康資本は蓄積されており、初期の健康が影響を与えている点から、健康格差が固定化される恐れがあることが示唆された。

---

<sup>+</sup>大阪大学大学院国際公共政策研究科博士後期課程 (E-mail : i-tatefuku@osipp.osaka-u.ac.jp)